



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治二〇年
Citation	北大百年史, 史料(二), 45-95
Issue Date	1981-07-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30065
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo2_p45-95.pdf



明治二〇年

六四七 農学校所属札幌農芸伝習所経費に付上請

札幌農学校所属札幌農芸伝習所経費ノ義ニ付上請

今般札幌農学校所属札幌農芸伝習所御設立可相成ニ付テハ該所経費別紙ノ通予算相調候ニ付該金額更ニ札幌農学校江御下附相成度此段上請仕候也

明治廿年一月十日

札幌農学校教授佐藤昌介^印

北海道庁長官岩村通俊殿

〔別紙〕

札幌農学校所属札幌農芸伝習所経費^{自廿年四月一日起至廿一年三月三十一日}予算調

一金六百六十円

俸給

内訳

金参百六十円

所長書記一人

金参百円

傭員二人

一金貳百円

傭人料

一金貳百円

營繕器具費

一金五拾円

筆墨用紙郵便電信等

金貳百円

消耗品

内訳

金百五拾円

薪炭油茶類

金五拾円

雜用品

一金千五百円

生徒貳十五名費一人ニ付月金五円給与

總計貳千八百拾円

但シ已上ノ金額ノ内金貳千六百貳拾九円ハ本庁予算額ヨリ更ニ下

附ヲ得殘額百八十一円ハ農学校廿年度ノ予算ヨリ流通ノ見込

初年ハ生徒ノ員数ヲ限リテ貳十五名トナスヲ以テ経費モ大ニ減少ス

ルヲ見ルナリニケ年目ヨリハ生徒費増加シテ参千円トナルベン

訓導俸給ハ農学校從來ノ予算額ヨリ支出ノ見込ナルヲ以テ其金額ヲ

載セス

伝習所事務所及生徒寄宿舎ハ育種場引継キノ建家ヲ以テ之ニ充ルノ

見込

* 更ニ下付セラルヘキ金高ハ精算スルニ貳千五百八拾七円

限リニ付佐藤教授ニ断リ長官ヘモ申立置ク^{印(古川)}

〔農八五五〕

六四八 カッター叙勲及び教授採用の儀申入

農学校教師カッター条約継続ノ義願末ハ別紙ノ通りニ有之仍テ書記加藤政敏附添本日出发帰国為致候就テハ同人叙勲賞与方ノ義ハ予テ教授佐藤昌介手許迄差回置候上請書ニ準シ此際諸事可然御取計相成

度將タ又本校学科受持ノ義ハ曩ハ教授橋協ノ非職アリ今復カツターノ離任ニ遭遇候得ハ到底佐藤教授粍人婦任候連間ニ合ヒ得ヘキニ無之候間其地ニ於テ相当ノ人物至急御採用御差越相成度カツター氏ハ從來文学生理学比較解剖学ノ外尚頭微鏡字水産学獸医学等ヲモ担当シ本年卒業式奉行ノ期モ差迫リ候義ニ付課業中止ノ義ハ殊ニ差支候条総テ長官ヘ御伺定迅速御処分有之度此段申進候也

明治二十年一月十七日

札幌農学校事務取扱佐藤秀顯

北海道庁理事官藤田九万殿

〔別紙〕

カツター雇繼談判顚末

雇外国人カツター条約本月廿日ヲ以テ満期ノ処同人ハ尚教授上必須ノモノニ付本人ニ談示ノ上更ニ向フ三ヶ年間雇繼ラレ度旨上請ニ及ヒタル義ハ客年十一月廿日ナリ爾來命ヲ待ツ數旬本人ヨリモ頻リニ其結果如何ノ尋問アリ且期日漸ク逼ルニ至リタレハ十二月廿三日付電報ヲ以テ之ヲ在京理事官ニ問合セタルニ當時内閣伺中ノ趣翌日付回答アリ嗣テ同月廿九日婦省賜暇中現俸半額給与ノ義ハ許可セラレザル旨報セラル即チ其旨ヲ同人ニ通シ無給料ニテ婦省ハ如何能ク雇繼ヲ諾スルヤ否ヲ糺シタリ然ルニ同人ハ此際断然婦國ヲ申出テ動クベキノ色ナシ此ニ於テカ同人出京ノ義ヲ伺出テ三十一日付聽許セラレ此時雇教師ブルツクス等頻リニ同人ノ婦國ヲ惜ミ滞留ヲ懇懇セシ

カハ同人ハ遂ニブルツクス等ノ助言ニ從ハントスルノ意アル者ノ如クナリキ仍テ無給料ニテ婦省ノ許可并ニ勉勵賜金ノ義十二月三十一日伺出タルニ越テ一月二日無給料ニテ婦省ノ義并金貳百円手当ノ義許可ノ旨ヲ報セラル即チ之ヲ同人ニ達シタルニ遂ニ雇繼承諾ヲ表スルニ至レリ故ニ同四日付ヲ以テ之ヲ東京ニ電報セリ然ルニ其翌五日向ニ二ヶ年間雇繼方可取計旨電報アリ於是カ最初ヨリ双方ノ間ニ予定セル協議ハ更ニ一變セシ景況ニテ同人ニ在テハ二ヶ年間ノ雇繼ハ絶テ之ヲ諾スルノ意ナキカ如シ蓋シ其理由トスルトコロ一旦婦省ノ后再ヒ本邦ニ來ルモ期限僅ニ一年半ニシテ得失相償ハストスルモノ、如シ依テ已ヲ得ス更ニ談示ノ上前途ハ姑ク措キ先ツ來ル第二学期ノ終リ即チ本年卒業生ノ教授ヲ全フスルニ至ル迄雇繼ノ義ヲ伺出テシニ同月七日二ヶ年間雇繼ノ義ハ総理大臣批可済ニテ最早動シ難キ旨ヲ報セラル仍テ直ニ之ヲ同人ニ報シ懇切説諭ノ上反覆熟考セシメタリ同人ハ或ハ之ヲ同僚ニ協議シ或ハ之ヲ在郷ノ老母ニ電報スル等充分熟慮ノ上遂ニ到底雇繼ヲ承諾シ難キ旨昨十六日決答セリ之ヲ以テ予テ開申シ置タル如ク書記一名ヲ付添ヘ発程セシムルニ至レリ雇繼談判ノ顚末大要右ノ如シト云爾

〔農二七一〕

六四九 校費生及び農芸伝習科設置の儀上請

札幌農学校生徒学資ノ件上請

第一条 札幌農学校生徒ノ儀ハ旧開拓使ノ時ニ於テハ官費生ニシテ定員五十名トシ卒業ノ後五年間開拓使ニ奉職スルノ義務ヲ帯ヒシメタリ農商務省ノ管理ニ属スル以來官費ヲ改メ貸費トシ而シテ生徒卒業後ノ進退ハ各自ノ自由ニ任セタリ是ニ於テカ該学校ニ於テ養成シタル生徒ハ率ネ北海道ヲ去リ他ノ府県ニ奉職シ独リ該学校設立ノ精神ニ背馳スルノミナラス殆ンド学校設立ノ効用ナキニ至レリ今般該校官制御制定相成タルニ依リ該校々則ヲ更定シ専ラ本道ニ必要ナル農学牧畜農芸化学植物学農政学土木工学等ヲ授ケ卒業ノ後ハ本道庁ニ奉職シ力ヲ本道拓地殖民事業ニ尽スノ義務アルモノト規定セントス已ニ是義務ヲ帯ヒシムル上ハ其学資モ随テ官給トシ卒業後還償ノ責ナキモノト定メ度右学資ハ生徒一人一ヶ月金八円以内定員五十人ヲ限り農学校校経費内ヨリ支辨致シ度候事

第二条 前条述フル所ノ生徒ハ農学校本科生ニシテ学期八年^{ニテ}ニシテ卒業スルモノナリ然ルニ北海道ノ地タル目下改進ノ実業家即チ泰西農業法ニ通曉シ之ヲ実地ニ使用スル農業者ヲ得ルコト必要ナルヲ以テ本科ノ外別ニ農芸伝習科ヲ置キ本道農家ノ子弟等ヲ召募シ農学ノ大意ヲ講授シ実業ヲ伝習セシメント欲ス該生徒ノ如キモ到

底自費入学者ヲ得ヘキ見込ナキニ付其学資ハ官給トシ生徒一人一ヶ月金五円以内該学科生徒ノ学資ハ本科生ノ如ク多額ヲ要セサルニ付定員五十人ヲ限り農学校校経費内ヨリ支辨致度候事

第三条 前二条ノ給費生事故アリテ半途退学ヲ命シ又ハ自己ノ願ニ依リ退学ヲ許シタルモノハ其給費ヲ還償セシメ本人資力ナキトキハ保証人ヨリ還償セシメ度候事

右御認可相成度御参考ノ為メ別紙校則摘要相添此段上請候也

明治二十年一月廿二日

北海道庁長官岩村通俊 印

内閣総理大臣伯爵伊藤博文殿

〔朱書〕
〔上請ノ趣認許ス〕

明治二十年三月二日

〔別紙〕

札幌農学校々則中校費生ニ関スル条項摘要

第六章 校費生

第二十三条 学生中学業優等ナルモノヲ撰ヒ校費生トナシ学費ヲ給与スルコトアルベシ

第二十四条 校費生ノ員数ハ五十名ヲ以テ限リトナス

第二十五条 校費生卒業後道庁ノ採用ヲ蒙ムルトキハ滿四ケ年間奉

職スベキ義務アルモノトス

第二十六条 校費生卒業後他ノ官衙ニ奉職シ或ハ自立ノ事業ヲ起サ

ント欲スルモノハ校長稟議ノ上道庁長官ノ認可ヲ請フヘシ

第二十八条 校費生給与ノ金額ハ一ケ年凡九拾六円ヲ以テ目的トナシ入舎中衣服筆紙等現品ヲ以テ給シ或ハ本校ノ便宜ニ随ヒ其代金ヲ以テスルコトアルベシ

〔マ〕
同校々則中農業伝習科ニ関スル条項摘要

第四条 札幌農学校ニ農芸伝習科ヲ置キ邦語ヲ以テ農学ヲ講授シ且専ラ実地ニ就キ模範農業ヲ習ハシム

第四十七条 農芸伝習科ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ募集ス

一 本道農家ニシテ耕地一町歩以上ヲ所有スルモノ若クハ其子弟
一 本道ニ永住シ開墾起業ノ目的確実ナルモノ

他ハ略ス

同校々則中学資償還ニ関スル条項摘要

第三十条 校費生自ラ請フテ中途退校シ又ハ第十条ノ場合ニ於テ退校ヲ命セラレシモノハ給与ノ金額即時ニ返納スヘシ但書略ス

〔第十條 左項ニ当リ在校セシムベカラサルモノト認ムルトキハ退校ヲ命ス

一 校則ヲ犯シタル者、本校職員ノ説諭ヲ用ヒサル者、品行方正ナラサル者、学力不充分ナル者、病ニ罹リ修学スヘカラサル者、

第五十九条 生徒自ラ請テ退学シ又ハ第五十三条但書ノ場合ニ於テ

退学ヲ命セラル、者ハ入学中ノ給与金ヲ返納セシムベシ〔本条ハ伝習科生徒ニ関スル〕

〔第五十三条但書 但シ第十条ノ各項ニ触ル、者及実地勞力ニ堪ヘサルモノハ退学ヲ命ス

付 右に付内閣書記官上申

北甲三号

明治二十年一月廿五日

内閣書記官(印)(巖谷)

内閣總理大臣(花柳)(伊藤)

内閣書記官長(印)(光顯)

北海道庁長官上請札幌農学校生徒学資ノ件

別紙北海道庁長官上請札幌農学校生徒従前貸費ノ制ヲ改メ旧開拓使ノ例ニ拠リ学資ヲ官給シ定員五十人ヲ限リ一人一ケ月金八円以内トシ成業ノ後ハ四年間本道庁ニ奉職スルノ義務ヲ帶ハシメ且本科ノ外別ニ農芸伝習科ヲ置キ本道農家ノ子弟ヲ募リ簡易実業ヲ伝習セシメ是亦五十人ヲ限トシ一人一ケ月金五円以内ノ学資ヲ給与シ兩科合セテ百人此学資歲計金七千八百円ハ同庁経費内ヲ以テ支辨シ半途退学ノ者アルトキハ其給額ヲ償還セシメ度トノ趣ハ他ニ類例ナキモ同庁ノ如キハ他ノ地方ニ異リ右等特典ヲ与ヘサレハ学事ヲ振興スル能ハサルヘシ依テ上請ノ通認許可相成歟裁ヲ仰ク

指令案

上請ノ趣認許ス

〔朱書〕

〔明治二十年三月二日〕⑨〔柿木原〕

大藏省并検査院へ通牒⑨〔柿木原〕

〔公文類聚二一一二九〕

六五〇 広井勇太田稲造助教採用及びドイツ留学の儀上請

在米国農学士兩名札幌農学校助教ニ御採用独乙国留学ノ義

ニ付上請

助教月俸七拾五円

在米国農学士 広井 勇

満三ヶ年独乙国留学

助教月俸七拾五円

在米国農学士 太田稲造

満三ヶ年独乙国留学

右兩名義去ル明治十四年札幌農学校卒業同年開拓使御用係勸業課拝命奉職致候処広井勇義ハ同年冬煤田係勤務拝命専ラ幌内鉄道建築ノ事ニ従事十五年鉄道工事落成ノ後工部省御用係ニ転シ日本鉄道建築ニ従事十六年中辭職ノ上自費ヲ以テ米国へ渡航該国シント、リユース府ル於テ河道改良ノ工事ニ従事爾後ウヲルジニヤ州ノルホークル於テ鉄道技手トナリ当時ハテラウキヤ州ニ於テ橋梁架設ノ事業担当罷在候太田稲造義ハ十五年中農商務省御用係拝命札幌農学校ニ於テ

助教ノ職務兼勤致候処十六年八月辭職ノ上東京大学撰科ニ入り經濟統計ノ諸科研究十七年八月自費米国へ渡航爾來マレイランド州ボルチモール府ジョンズ、ホプキンス大学ニ於テ専ラ農業經濟地方制度農業統計等ノ諸項研究致居候右兩名義学力優等才能拔群且ツ既ニ多年海外ニ滞留罷在候故実地經驗ニモ相富ミ候得共益學術研究ノ志望ヲ抱キ居候モノル有之候間今般頭書ノ通札幌農学校助教ニ御採用在官ノ儘独乙国留学被命別按ノ通御訓令相成リ帰朝ノ上ハ札幌農学校ニ於テ学生ノ授業ヲ担当為致益農学校學事ノ進捗ヲ謀リ度依リテ前文同人等ノ履歴大略開陳御訓令按及内閣總理大臣上請按相添ヒ右広井勇太田稲造兩名札幌農学校助教ニ御採用向三ヶ年間独乙国留学被命候義謹而上請仕候也

明治廿年一月

札幌農学校教授佐藤昌介④

北海道庁長官岩村通俊殿

〔注〕訓令按を略す。

付 右に付内閣總理大臣へ上請

独乙国へ學士留学ノ儀上請

当庁所管札幌農学校ノ儀ハ從來其課程ニ数多ノ学科ヲ包含セルヲ以テ教授ノ職務ハ専ラ雇外國人ヲシテ担当為致居候処該校創立已來既二十ヶ年ヲ經過シ卒業生ヲ出セルコト又タ数十人ニ及ビ候ニ付將來

該校ノ学事ハ右卒業生中ヨリ学力優等ノモノヲ挙テ夫々担当為教候様仕度就テハ目下自費米国ニ留学罷在候札幌農学校卒業生農學士広井勇同農學士太田稻造ノ兩人ハ学力優等才能拔群ノモノニツキ今般札幌農学校助教ニ採用ノ上独乙国へ派遣該国伯林大学及ヒ其他ノ大學ニ於テ広井勇義ハ土木工學物理学及数学研究且官有鉄道及ヒ土木ニ關スル事務ヲ主管ノ官衙ニ於テ実験セシメ太田稻造義ハ農業經濟學農業統計學及ヒ農業ニ關スル制度ヲ研究セシメ且普國農務省及統計院ニ於テ農政及統計ニ關スル事務ヲ実験セシメ帰朝ノ上ハ札幌農学校ニ於テ夫々研究ノ学科担当セシメ度ト存候尤モ右兩人留學經費ノ義ハ独米國間海陸旅費及帰朝旅費ノ外ハ別ニ日当手当等ヲ支給致サ、ル義ニ有之候間右兩人義向滿三ヶ年独乙國留學ノ義御認可相成度別紙旅費予算相添此段上請候也

明治廿年一月廿三日

北海道庁長官岩村通俊印

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

〔朱書〕
「上請ノ趣認許ス」

明治二十年三月二日「印」(内閣總理大臣之印)

〔注〕 別紙を略す。

〔農二七一〕

六五一 開識社開会日の門限外出入に付願書

願 書

今般本会ノ議決ニ依リ予科生徒ノ傍聴ヲ許候ニ付キテハ開会ノ節本校門限時間外ト雖トモ該生徒ノ出入ヲ御許可被下度此段奉願上候也

二月十八日

札幌農学校内開識社總代堀正太郎印

札幌農学校御中

〔朱書〕
「願之趣聞届候事」

但門限及出入ハ本校当直員ノ指揮ニ從ヒ社員当番者ヲシテ其取締ヲナサシムヘキ事

明治二十年二月十九日「

〔農三二一〕

六五二 育種場内水田貸与に付伺

明治二十年二月廿八日

書記鈴木武良印

校長事務取扱印(佐藤)

助教印(南)

書記印(重松)印(加藤)

第六八号

水田貸与ノ儀伺

育種場内水田拝借ノ儀札幌村四拾六番地伊藤庄五郎外九名ヨリ別紙

之通り出願^{〔注〕}ニ付夫々取調候処事実尤ノ次第殊ニ水田ノ如キハ冗費ヲ要スルノミニシテ人民奨励上別ニ鴻益ナキハ勿論ニ付望人へ貸与候方却テ得策ト被存候条本年限り無税貸与取計置可然哉此段相伺候也

〔別紙〕

水田拝借願

私儀北海道庁勸業課御附屬育種場内水田昨明治十九年四月中御貸渡可相成旨其筋より御達ニ依リ五反忒畝歩拝借仕耕作候処好結果ヲ得稲作諸機械等モ粗備具致撰種肥料ノ手配モ致有之候ニ付尚本年モ統テ拝借仕度候間何卒特別之御詮議ヲ以テ御許容被成下度只管奉願候也

明治廿年二月十五日

札幌郡札幌村四拾六番地

伊藤庄五郎[㊤]

札幌農学校御中

〔注〕 他の九名の願書を略す。

〔農三三〇〕

六五三 ストックブリッジ雇繼に付申入

「ストックブリッジ」、三年間雇繼ノ談判ヲ開クベキ旨御伝達ノ趣了承委曲商議ノ末同人ノ答左ノ如シ

一 従前同一ノ条約ニテ三年間雇繼カル、トナラバ一ヶ月銀貨三百

円ツ、請求シタシ

一 若シ期限内自己ノ都合ニテ解約スルモ帰国旅費ヲ給セラル、ナラハ一ヶ月銀貨貳百七拾五円ツ、ニテ三年間ヲ約スルモ可ナリ
一 向フニ二年ヲ期スル義ナラバ従前同一ノ条約ニテ一ヶ月銀貨貳百六拾円ツ、請求スルヲ以テ足レリトス

一 本年七月迄三ヶ月間ノ雇繼ナラバ俸給其他今ノ儘ニテ可ナリ
一 自分ハ久ク日本國ニ在テ米國ノ文化ニ遠サカランヨリ寧ロ帰郷シテ營業センコトヲ欲スレバ既ニ之ヲ在郷ノ知友ニ商議シ置タリ多分吉報ヲ得ル積ナリ其見込ノ確定スル迄雇繼ノ義ハ駈ト返答シ難シ仍テ前陳各項ノ申立モ帰郷ノ見込ノ齟齬スル時迄ハ仮リニ提出スルニ止リ確定ト御認メハ無之様イタシタシ

一 若シ夫自分ニ教授ノ外常ニ北海道物産ニ就キ化学製造ノ試験ヲナスカ如キノ事ヲ委ネラル、ナラバ己カ研究ノ一端トモ成リ空ク一教官ノ境涯ニ終ルニハ勝ル義故ヘ別ニ思案シテ答フル所アルヘシ

右ハ同人両三日間熟考ノ上申出タル要旨ニ有之然ルニ同人ハ（其學識素ヨリ本校ノ教授タルニ恥サルベシト雖トモ）其授業ニ熱心ナラス真切ナラザルハ從來本校職員ノ常ニ以テ遺憾トナス所ニシテ又學生ノ痛歎スル所ニ有之事実右ノ如クナルニ係ラズ雇繼ノ為メ増給迄ヲモ要求シ殊ニ自己ノ都合次第ニテ何時モ左右シ得ベキカ如キ曖昧

タル返答ヲナス様ニテハ此後熱心従事ハ寛東ナシト存候条寧ロ断然
解雇他ニ適任ノモノ御雇入ノ方然ルベキ歟果シテ解約ニ決セバ其満
期ハ来ル五月十六日故ヘ五月上旬迄ニ其代人ノ着任ヲ希望致シ候若
シ其運ニ至リ難シトセハ当学期ノ終乃チ六月三十日迄大約一ヶ月半
乃至二ヶ月ノ間「ストツクブリツヂ」ヲ雇繼ル、丈ケハ授業上亦タ
不得止義ト存候何分ノ義至急御伺定相成度此段取束申進候也

廿年二月廿八日

佐藤理事官[㊤]

藤田理事官殿

〔農二七一〕

六五四 広井勇太田稻造留学心得方訓令

札幌農学校助教広井勇

今般独逸国留学ヲ命シタルニ付心得方左ニ

第一条 独逸国柏林大学及其他ノ大学ニ於テ左ノ学科ヲ専修スヘシ

第一 土木工程

第二 物理学

第三 数学

第二条 北海道ノ土木起業等ニ関シ有益ト認ムルモノハ時々報告ス
ヘシ

第三条 鉄道其他土木ニ関スル工事経営ノ事務順序其主務ノ官衙ニ

就キ親シク実験スヘシ

右訓令ス

明治二十年三月三日

北海道庁長官岩村通俊

× × ×

札幌農学校助教太田稻造

今般独逸国留学ヲ命シタルニ付心得方左ニ

第一条 独逸国柏林大学及其他ノ大学ニ於テ左ノ学科ヲ専修スヘシ

第一 農業経済学

第二 農業統計学

第三 森林漁獵採礦及農業ニ関スル諸法律

第二条 北海道ノ農業経済改良ニ関スル意見及欧洲現行ノ農政上有

益ト認ムル件々ハ時々報告スヘシ

第三条 独逸国主務ノ官衙ニ就キ農政及統計ノ事務親シク実験スヘシ

シ

右訓令ス

明治二十年三月三日

北海道庁長官岩村通俊

〔農二七二〕

六五五 明治一九年度事業報告提出の件

校第六〇号

明治十九年度札幌農学校事業報告材料別紙之通取調差進候也

明治廿年三月七日

札幌農学校報告主任 助教高田信清 印
同 山崎 益 印

事業報告取調委員長北海道庁理事官細川碧殿

〔別紙〕

自十九年一月廿六日
至同十二月三十一日

札幌農学校報告

札幌農学校本週年間ノ異動ヲ挙レバ職員ノ非職転任及教頭心得ヲ置
カレシコト并ニ卒業生ニ米国留学ヲ命ゼシコト佐藤属ノ帰朝本科第
一年級ノ欠ケシヨリ予備科第一級ノ卒業生ヲシテ同科新第一級ニ復
入セシメタルコト所属製物試験場ヲ主務課ヘ引渡セシコト其他所属
農園博物場植物園等ナリ

職員ノ異動ハ幹事一名(月俸金八拾円)属二名(二等属)御用掛一名(月俸金廿五円)備
六名(月俸金拾七円月俸金拾四円同金拾四円)皆本年二月非職ヲ命セラル其後備一
名月俸金拾円ヲ以テ就職セシム又予備科受持助教一名ハ七月辞職シ
一名ハ八月転任セリ(二名各々月俸金五拾円)而フシテ皆此ノ後任アリ一名ハ八
月一名ハ九月就職セリ(二名各々月俸金四拾円)乃チ本校職員ノ現員ハ校長一名
備教師三名教授一名助教七名属二名備四名総計十八名ナリ幹事ノ後
任ハ今尚ホ之ヲ欠ケリ

本週年間職員々数及給料ハ左表ノ如シ

校 長		幹 事		教師(外国人)		教 授	
人員	給料	人員	給料	人員	給料	人員	給料
一	1,600 円	一	150 円	三	10,000 円	一	9,000 円
助 教	属	備					
人員	給料	人員	給料	人員	給料	人員総計	給料総計
九	3,550 円	三	1,500 円	10	7,600 円	六	1,950 円

本年四月本校備教師米国人ウキリアムビーブルツクス氏ヲ以テ教頭
心得トナン教授上ノ得失課程ノ組織及年報材料編成等ノ責ニ任セシ
ム是レ今日ニ始ルモノニ非スシテ即チ本校設置ノ初ニ当リ教師クラ
イク氏ヲ以テ之ニ充テ尋テホキラー氏之ヲ承ケ後チベンハロー氏相
繼キタリ然ルニ明治十五年農商務省ノ所轄トナリシヨリ終ニ之ヲ廃
セシナリ

本年七月ヲ以テ米国マツサチユーセツツ州カムブリツヂ、ハーバ
ード大学ニ向フ三ケ年間ノ留学ヲ命セシ宮部金吾ハ本校第二学期即明
治十四年ノ卒業生ニシテ引続キ二ケ年間旧東京大学ニ於テ植物学ヲ
研究セシメ乃チ本校ノ助教ヲ命ジ置キシモ右留学ノ為メ本年七月ヲ
以テ辞職セリ而フシテ今回留学ヲ命ゼシモ亦タ植物学専攻ヲ以テ目

(地積ハ実測ヲ経ザルヲ以テ概算タルニ過キズ) 豢養動物ノ内種用屠殺用牛合シテ七十四頭種用豚二十九頭及耕馬六頭ヲ併セテ同課ニ引キ渡セリ

現在地積ハ凡七拾五町八反歩ニシテ内墾成地ハ四拾町八反歩ナリ而シテ本年植物栽植ニ係ル面積ハ四拾二町九反歩ニシテ其種裁反別ノ墾成反別ニ超過スル所以ノモノハ他ナシ勸業課ヘ土地交付スル前ニ當リ已ニ播種シタル反別ナルヲ以テ本園ニテ植物ノ收納ヲ為セバナリ

作業ノ梗概ハ昨年ニ異ナルコトナシ栽培植物ヲ大別スルニ二部ニシテ即チ試作植物飼畜植物是レナリ試作植物ハ内外ノ植物種子類百有餘種ヲ蒐集シ第二年学生ヲシテ実作セシメ各種風土ノ適否生育ノ景況等ヲ実檢セリ是レヲ分類スレハ穀菽根菜葉菜蔬瓜等ナリ各類結果ノ景況ヲ略言スレハ穀菽ハ中等ノ收納ニシテ成育モ亦タ可ナリ根菜及葉菜ハ一二ヲ除クノ外統テ克ク繁茂シ良況ヲ告ケタリ蔬瓜ハ生成可ナルモ結実セザルモノアリ或ハ結実スルモ害虫ノ為メ莖葉枯損セシモノ多シ第三年及第四年学生ニハ別ニ地ヲ分画シテ各自ニ試作セシメタリ其試験方法及ヒ結果ニ至リテハ他日担任教師ノ申告スル所アルヲ以テ茲ニ之レヲ贅セズ飼畜植物ハ主トシテ玉蜀黍燕麦荻菜等ニシテ各種收穫豊凶ノ梗概ヲ述レハ玉蜀黍ハ開花結実ノ候ニ際シテ温度頻リニ昂騰シ旱天連統セシヲ以テ其結実ハ近年無比ノ豊饒ナリ

然レ共初生ノ期ニ當リテ害虫ニ罹リ黄色ヲ呈シ成長遅タトシテ振ハズ亦結実ノ後禽獸ノ害ヲ被リ前後ノ災害ニテ収量凡三割ヲ減耗セリ燕麦ハ昨年英國ヨリ二種ヲ輪致シテ作試セシニ其生茂頗ル佳良ニシテ近年罕ナル多量ノ收穫ナリ其一種「レース・ホールズ」ト唱フルモノハ種子堅実ニシテ光色アリ連年甚シク害毒ヲ逞フシタル「スモツト」病ノ如キハ特ニ其痕跡ヲ見ズ是レ此地ニ適応スルノ良種タルヲ徴スルニ足ル其収量ハ壹反歩ニ付三石三斗八升ニシテ従来ノ種ニ比スレバ壹石壹斗貳升八合ノ增收ナリ是ノ種子ヲ本庁勸業課ニ譲渡セシ量八拾石ナリ蓋シ管下ニ種子用トシテ分布ノ為メナリ他種「ブラツク・タルタリヤル」ハ其収量ハ前種ニ比シテ稍々減少スルノミナラズ稀レニ「スモツト」病ノ被害ヲ視ル是レ則チ連作スルニ從テ漸次其病害ノ素因ヲ増スモノ、如シ荻菜ハ良收穫ニアラザルモ前年ニ比シテ敢テ著シキ増減アルヲ見ズ即チ植物栽培反別及收穫高ハ左表ニ示ス

種 目	反 別	
	反	別
燕 麥	六、四	一、九四石
玉 蜀 黍	六、五	一、九三噸
燕 麥 草	二、二、四	一、七七

計	根 菜 類	
	蔬菜類	生徒試作地
四二、九	一、〇 二、四	四、四 八
三八七 三二六	一一四	

牛ノ現在頭數ハ貳拾四頭ニシテ本週年間其成生至テ健全ニシテ良況ヲ顯セリ蕃殖スルモノ八頭アリ養豚ハ三十三頭ニシテ蕃殖スルモノ十九頭児豚ハ畜養ノ不良ヨリ斃ル、モノ九頭アリ耕牛馬ハ十三頭ニシテ内九頭ハ耕馬ナリ

搾乳ハ其量百五石九斗三升九合ニシテ内売却高ハ八拾七石四斗四升仔牛飼養消費高ハ壹斗五升貳合九勺牛餅製造高ハ拾八石三斗四升七合九勺ナリ仔牛ハ専ラ乳ノ少量ナル母牛ヲ撰ムト雖トモ直チニ哺乳セシムルヲ以テ其哺育ニ消費スル高ハ實際前記ノ高ヨリ数十倍スルモノナリ

園内ノ改良ハ卑湿ノ地ニ排水管ヲ設置セシニアリ十五年来設置セシ排水管ノ効驗ハ今日ニ於テ倍々著シキヲ以テ卑湿ノ地ニシテ年々消雪霖雨ニ際シテ排泄ニ便ナラズ自然過湿ヲ免レズシテ植物耕作ニ害アルノ地凡ソ貳万坪ニ排水管ヲ設置ス其延長ハ貳千百十五間ニシテ管數ハ大小併セテ一万千七百四十七本ヲ施用セリ亦荒蕪地ニ溝渠ヲ

通ス其延長貳百五十三間ニシテ漸次沮洳ヲ疏シテ其土質ノ乾燥スルヲ俟テ放牧場ヲ開設スルノ見込ナリ

本園現業者及事業ニ使役セシ人夫人員并ニ給料額左表ノ如シ

人	夫	給料計	人員總計	給料總計
八、八、六	一、九四〇	八、八、六	三、二六九	三、二六九
内四人四月免ス	二〇	一、二四、四二	二月雇	五八、四

所屬博物場及植物園

本場ハ十七年十二月札幌農學校所屬トナリシヨリ専ラ北海道所産ノ動植物等ノ學術ニ裨益アルモノヲ蒐集シ本場ニ陳列シ以テ學生講究ノ便ニ供スル所ナルニヨリ秩序ヲ三門ニ分ケリ即チ天產部徴史部勸業部是ナリ又本年新ニ天產部内ニ鈹物ノ一科ヲ加ヘ陳列ノ秩序モ略ホ整頓セリ而シテ列品ノ總數ハ七千三百十九種ニシテ此内本週年間ノ増加ハ凡五十種ナリ其他毫モ異ルナシ

本場ハ固ヨリ學生講究ノ便ニ供スルモノト雖トモ今尚ホ旧慣ヲ咸廢セス講究ノ間日ヲ撰ミ本道官民ノ見ヲ博スル為メ之カ便ヲ画リ四月十八日ヨリ十一月廿八日ニ至ル日水ノ二曜ヲ以テ開場ノ日トナス日

数六十七日ナリ而シテ縦覧人員ハ一万一千九百五十八人ニシテ一日平均百七十八人ナリ之ヲ昨十八年ニ比スレバ開場毎ニ四十二人増加ノ割合ナリ

植物園ハ札幌北四条西一丁目ノ番外地ニ在リシモ園固甚タ狹隘ニシテ植物ハ日ニ月ニ種類ヲ増加セシニヨリ到底此ノ如キ狹隘ノ園固ヲ以テ学生ヲシテ充分本草学ヲ實際ニ研究セシムルヲ得ズ故ヲ以テ漸々其範圍ヲ拡張セザルヲ得ザルニヨリ之ヲ博物場地内ニ遷移センコトヲ旧北海道事業管理局ニ請ヒ十八年一月ヲ以テ同局ノ聴可ヲ得本週年間即チ十九年十月ヲ以テ始テ博物場地内ニ遷移セリ而フシテ現栽培地反別ハ壹町四畝六歩強ニシテ其植物ハ皆本週年間栽培セシモノナリ其科数ハ八十五科ニシテ種類ハ四百三十六種ナリ其中本週年間採集ノ植物ハ四十二種トス即チ此栽培地ハ植物自然分科園ニシテ有用植物園ハ明年中ニハ必ズ設置スルノ目的ナリ

博物場地内ニ温室一棟アリ是亦旧植物園内ヨリ十九年十月ヲ以テ遷移セシモノニシテ植物自然分科園ノ外ニアリ是学生ノ本草学講究ニ供スルモノナリ今尚ホ其地積確定セザルヲ以テ此ニ報ゼズ

本週年間植物園温室ニ人夫ヲ使用セン総数ハ千五百十一人ニシテ其賃金三百七拾七円九拾貳錢五厘ナリ斯ク人員ノ多数ナルハ本年移遷セシ故ナリ

本園ニハ現業者二名ニシテ本週年間(監守以來)ノ給料額ハ金三百七拾四

円也

以上ハ本週年間本校ノ事業成績ノ大要也

[農三〇五]

六五六 教職員叙任等通知

校第七四号

本校員叙任其他之儀通知案

本校幹事以下叙任其他別紙之通ニ候条此段及御通知候也

明治二十年三月廿三日

札幌農学校

第四部御中

[別紙]

記

兼任札幌農学校幹事 三月八日 札幌農学校教授 佐藤 昌介

但三月十三日東京出発同月廿一日任地札幌着

叙奏任官四等 同 札幌農学校幹事 佐藤 昌介

任札幌農学校助教 三月三日 広井 勇

但即日三ヶ年間独逸国留学被命

同上 同 太田 稻造

但同上

叙判任官一等賜上級俸 同 札幌農学校助教 広井 勇

同上	同	同	太田 稲造
叙判任官一等賜下級俸	三月廿二日	同	大嶋 正健
同	同	同	南 鷹次郎
叙判任官二等	同	札幌農学校助教 正七位勲七等	高田 信清
任札幌農学校助教兼舍 監	二月廿八日	中根 寿	
但即日滞京被命三月十三日東京出発同月廿一日任地札幌着			
叙判任官三等	同	札幌農学校助教 兼舍監	中根 寿
叙判任官四等	三月廿二日	札幌農学校助教	佐瀬辰三郎
叙判任官四等	三月廿二日	札幌農学校助教	小寺甲子二
同	同	同	足立元太郎
大坂府へ出向ヲ命ス	三月七日	札幌農学校書記	重松 卓爾
任札幌農学校書記	三月八日	非職元北海道庁 浦河外十郡長	河田 保
叙判任官五等	同	札幌農学校書記	河田 保
叙判任官六等	三月廿二日	札幌農学校助教	山崎 益
非職ヲ命ス	同	同	碓山 晋
右之通			

〔農三〇一〕

札幌農学校校則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十年三月二十三日

北海道庁長官岩村通俊

札幌農学校校則

第一章 総則

第一条 札幌農学校ニ農学科及工学科ヲ置ク

第二条 農学科ニ於テハ農學ノ理論及実業ヲ教授シ工学科ニ於テハ

土木工学ニ関スル學業ヲ教授ス

第三条 札幌農学校ニ予備科ヲ設ケ本科ニ入ルノ階梯トナス

第四条 札幌農学校ニ農芸伝習科ヲ置キ邦語ヲ以テ農學ヲ講授シ且

ツ実地ニ就キ模範農業ヲ習ハシム

第二章 農学科及工学科

第一款 入学及退學

第五条 農工学科ノ學生ハ予備科ヨリ入ルヲ正規トス然レトモ其人

員不足ナルトキハ別ニ召募スルコトアルベシ

第六条 新ニ入学ヲ願フモノハ年齢満十七歳以上品行方正ニシテ左

ノ試験課目ニ合格スルヲ要ス

一 英語（読書、応対、文法、作文）

一 地理學及地文學

一 歴史（万国史ノ類）

六五七 札幌農学校校則

北海道庁令第八号

一 博物学 (大意)

一 生理学 (大意)

一 化学原理

一 数学 (算術、代数、幾何)

一 英文和訳和文英訳

一 漢文学 (史記文章軌範ノ類)

一 体格

第七条 入学志願者ハ第一号書式ニ準シ願書及履歷書ヲ差出シ許可ヲ得タルモノハ第二号書式ノ入学証書ヲ差出スベシ

第八条 保証人ハ北海道ニ住シ丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立ル者ニ限ル

第九条 左項ニ當リ在校セシムベカラサルモノト認ムルトキハ退校ヲ命ス

一 校則若クハ其他ノ命令規則ニ悖戾シタル者

一 品行方正ナラサル者

一 学力不充分ナル者

一 病ニ罹リ修学スベカラサル者

第二款 学歴

第十条 学年ハ九月一日ニ始リ翌年六月三十日ニ終ル

第十一条 学年ヲ分テ前後二期トス前期ハ九月一日ヨリ十二月廿四

日ニ至リ後期ハ一月二十一日ヨリ六月三十日ニ至ル

第十二条 休業期日ハ左ノ如シ

一 冬期休業 自十二月廿五日至一月二十日

一 春期休業 自四月第四月曜日一週間

一 夏期休業 自七月一日至八月三十一日

一 大祀令節

一 札幌神社祭 六月十五日

一 日曜日

第三款 学科課目及年限

第十三条 農学科ノ課目ハ大約左ノ如シ

一 農学 普通農学、特別農学、農事實習及試験

一 化学 無機、有機、及農芸

一 植物学

一 動物学及昆虫学

一 獣医学及実験

一 水産学

一 森林学

一 地質学

一 幾何学、三角術、測量学及画学

一 物理学

一 經濟原論及農業經濟學

一 農政學及殖民策

一 歴史及地方制度ノ大意

一 記簿法

一 練兵

第十四条 工学科ノ課目ハ大約左ノ如シ

一 地質學

一 無機化學

一 幾何學、三角術、微分及積分

一 測量學及実測

一 画學及製図

一 記簿法

一 重學

一 物理學

一 水利工學（大意）

一 造家工學（大意）

一 土木工學及実習

一 經濟原論及工業經濟史

一 練兵

第十五条 各學科學生修學ノ期ヲ四ヶ年トナス

第四款 試験

第十六条 試験ハ各學期ノ終ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十七条 各科ノ評点ハ一百ヲ以テ最高ト定メ日課評点平均數ト期

末試験評点數トノ和ヲ二分シテ得ルモノトス

第十八条 諸科平均評点ハ各科ノ評点ニ其課程時間ヲ乘シタルモノ

ヲ合シ課程時間ノ總數ヲ以テ除シ之ヲ得ルモノトス

第十九条 諸科平均評点數六十未満ノモノハ落第トス

第二十条 諸科平均評点數六十以上ニ及フト雖モ各科ノ評点數六十

未満三科以上ニ及フトキハ落第トシ二科以下ハ再試ヲ行フコトアルベシ

第二十一条 各専門科四年ノ課程ヲ終リ各學期ニ於テ得タル評点數

ヲ平均シ六十點以上ノモノヲ及第トシ卒業証書ヲ授与ス

第五款 學資及校費生

第二十二条 學生ハ授業料一學年金五円ヲ納メシム

第二十三条 學生入舎ヲ乞フモノハ衣食其他雜費トシテ一月金八円ヲ納メシム

第二十四条 學生中學業優等ナルモノヲ撰ヒ校費生トナスコトアルヘシ

第二十五条 校費生ノ員數ハ五十名ヲ以テ限リトナス

第二十六条 校費生卒業後北海道庁ノ採用ヲ蒙ルトキハ滿四ヶ年間

奉職スヘキ義務アルモノトス

第二十七条 校費生卒業後滿八ケ年間其身分進退ニ就テハ北海道庁

長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八条 校費生ハ第三号書式ノ契約書ヲ出スヘシ

第二十九条 校費生ハ授業料ヲ免シ給与ノ金額ハ一ケ年凡九拾六円

ヲ以テ目的トシ入舎中衣服筆紙等現品ヲ以テ給シ或ハ本校ノ便宜
ニ随ヒ其代金ヲ以テ給スルコトアルヘシ

第三十条 校費生ノ給与ハ在舎中ニ限ルモノトス然レトモ學術研究
ノ為メ許可ヲ得テ他行スルトキハ相当ノ費用ヲ給スルコトアルヘ
シ

第三十一条 校費生半途退校ヲ願出又ハ第九条ノ場合ニ於テ退校ヲ
命セラレタルモノハ給与ノ金額即時ニ返納セシム

但病氣ノ為メ退校ヲ命セラレタルモノハ事情ニ因リ給与金ノ返
納ヲ免除スルコトアルヘシ

第六款 研究生

第三十二条 卒業生中学力優等才能拔群ナルモノヲ撰ヒ更ニ學資ヲ

給シ研究生トナスコトアルヘシ

但シ研究生ハ第四号ノ契約書ヲ出スヘシ

第三十三条 研究期限ハ一ケ年以上三ケ年以下トス

第三十四条 研究生ハ研究期限中校長ノ囑託ニ依リ學術ニ関スル諸

項ヲ調査シ或ハ時宜ニ依リ学生ノ授業ヲ助クヘキ義務アルモノト
ス

第三十五条 研究生研究滿期後ノ進退ハ第二十六条及第二十七条ニ

依ル

第三章 予備科

第三十六条 予備科生徒修學ノ期ヲ四ケ年トス其踐履スヘキ課目大
約左ノ如シ

一 英語

一 地理學

一 文法

一 歴史

一 算術及代數學

一 幾何學及畫學

一 化學原理

一 博物學

一 生理學

一 和漢學

一 体操

第三十七条 予備科第四級ニ入学ヲ願フモノハ年齡滿十三年以上身
体壯健ニシテ左ノ試験課目ニ合格スルヲ要ス

一 英語初歩

一 算術

一 漢文学

第三十八条 予備科入学志願者ノ願書証書等ハ第七条ニ依ル

但郡区長ノ奥書ヲ要セス

第三十九条 予備科生徒ハ第一級ノ初メニ於テ卒業ノ後修メント欲

スル学科ヲ撰ヒ校長ニ届出ヘシ

第四十条 予備科生徒ハ入舎ヲ許サス

第四十一条 予備科ノ学歴試験法授業料及退学ニ関スル事ハ第二章

本科ニ準ス

第四章 農芸伝習科

第四十二条 農芸伝習科ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ募集ス

一 本道農家ニシテ耕地一町歩以上ヲ所有スルモノ若シクハ其子

弟又ハ本道ニ於テ開墾起業ノ目的アルモノ

一 年齢十七年以上三十二年以下ノ者

一 身体強壯品行方正ナル者

一 確實ナル保証人ヲ立ル者

一 左ノ試験科目ニ合格ノ者

一 読書（漢字交リ文）

一 算術（加減乗除）

一 書取（布令規則類）

一 作文（通俗書狀）

第四十三条 生徒修学ノ期ヲ二ケ年トシ一年ヲ二期ニ分チ第一期ハ

四月一日ヨリ十一月三十日ニ至リ第二期ハ十二月一日ヨリ三月三

十一日ニ至ル

第四十四条 学業科目ハ大約左ノ如シ

一 農学大意

一 化学原理大意

一 害虫駆除法

一 蹄鉄学大意及実習

一 家畜治療法大意

一 牛馬使役及飼畜

一 農具使用実習

一 現業

第四十五条 第一期ハ専ラ実業ヲ伝習シ第二期ハ専ラ学科ヲ講習セ

シム

第四十六条 生徒ノ員数ハ五十名ヲ以テ定員トナシ在学中寄宿舎ヲ

貸与シ学資トシテ一月金五円ヲ給与ス

但自費入学ヲ願フモノハ員外トシテ許可スルコトアルヘシ

第四十七条 入学願書ハ第一号書式ニ入学証書ハ第五号書式ニ准シ

差出スヘシ

但自費員外生徒ハ第二号書式（郡区長ノ奥印ヲ要セス）ノ証書ヲ差出スヘシ

第四十八条 生徒ハ止ヲ得サル事故アルニ非サレハ半途ニシテ退学スルヲ許サス

但第九条ノ各項ニ触ル、モノ及ヒ実地勞力ニ堪ヘサルモノハ退学ヲ命ス

第四十九条 前条ノ場合ニ於テ退学ノ許可ヲ受ケ及但書ノ場合ニ於テ退学ヲ命セラレタルモノハ入学中ノ給与金ヲ即時返納セシム

第五十条 年中休業日ハ左ノ如シ

一 自十二月二十八日至一月五日

一 紀元節

一 天長節

一 札幌神社祭

一 札幌招魂祭

一 日曜日

第五十一条 毎期末ニ小試験ニ年末ニ大試験ヲ行ヒ及第者ニ卒業証

書ヲ与フ

第五章 教官會議

第五十二条 教官會議ハ本校ノ教授及助教ヲ以テ編成シ校長其首席

ヲ占ムルモノトス

但校長ノ意見ニヨリ此他ノ職員ヲ列席セシムルコトヲ得
第五十三条 會議ハ毎月一回之ヲ開クモノトス

但時宜ニヨリ臨時會議ヲ開クコトアルヘシ

第五十四条 教官會議ニ於テ議定スヘキ事項大約左ノ如シ

一 学生ノ授業及試験ニ関スル事項

一 課程ノ改正ニ関スル事項

一 学生ノ実業伝習ニ関スル事項

一 校費生及研究生ニ関スル事項

一 長官ノ下問若シクハ校長ノ諮問ニ答ル事項

書式第一号 用紙美濃紙

入学願

私儀御校（農学科、工学科、予備科）へ入学仕度履歷書相添此段奉願候也

族籍住所

年月日

姓 名 印

何年何月生

札幌農学校校長宛

履歷書 用紙美濃紙

姓 名

相違無之候也

一 何年何月ヨリ何年何月迄何所何学校若クハ何誰ニ就キ何学修業

年月日 何 郡 長 姓 名 印

用書何々

一 何年何月何学校ニ於テ何科程卒業

書式第三号 用紙美濃紙

一 賞状進級証書卒業証書ノ写

契約書

書式第二号 用紙美濃紙

入学証書

私儀今般札幌農学校(農学科、工学科、予備科)へ入学被差許候ニ付テハ在

校中御規則堅ク相守可申候仍テ証書如件

私儀今般農学校(農学科、工学科、予備科)校費生被命候ニ付テハ在学中御校則堅ク相守可申卒業後ハ御校則第二十六条第二十七条ニ依リテ進退可仕万一御規則ニ背キ半途退校被命候敷又ハ不得止事故アリテ退校相願候節ハ在学中ノ御給与金即時返納可仕保証人連署此段契約仕候也

族籍住所

年月日 姓 名 印

年月日 姓 名 印

族籍住所

何年何月生

保証人 姓 名 印

札幌農学校長宛

札幌農学校長宛

右之者今般入校御許可相成候ニ付テハ同在在校中ニ係ル一切ノ事件

ハ私ニ於テ引受可申候此段保証仕候也

書式第四号 用紙美濃紙

但向後転籍転居又ハ改印候節ハ速ニ御届可仕候也

契約書

族籍住所

私儀学資御給与ノ上何科研究被命候ニ付テハ御規則總テ確守可致此

年月日 保証人 姓 名 印

段契約仕候也

前書保証人誰儀丁年以上ニシテ当郡区内ニ住シ一家計ヲ立ルモノニ

族籍住所

年月日 本人 姓 名 印

何年何月生

札幌農学校長宛

教頭代理ハ消滅之儀ト御承知可有之為念此段及御通知候也

明治二十年三月廿五日

札幌農学校

書式第五号 用紙美濃紙

契約書

私儀今般農芸伝習生徒被命候ニ付テハ在学中御校則堅ク相守可申ハ

勿論万一御規則ニ背キ半途退校被命候歟又ハ不得止事故アリテ退校

相願候節ハ在学中ノ御給与金即時返納可仕保証人連署此段契約仕候

也

族籍住所

年月日 姓 名 印

族籍住所

保証人 姓 名 印

札幌農学校長宛

〔農三一九二〕

六五九 貸費減額の旨学生へ達

第四号

学 生

今般校則御制定ニ付貸費金額ノ義ハ来ル二十年会計年度即チ四月一日ヨリ月額金拾貳円ヲ減シ金八円トセラル

右相達候事

但シ誓約副証差出スヘシ

明治二十年三月廿五日

札幌農学校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

六五八 官制改革により教頭代理廃止の儀通知

番外

〔注〕 誓約副証を略す。

客年^{十二月}勅令第八十四号ヲ以本校官制御改正相成候ニ付テハ従前之

〔農三一〇一〕

六六〇 農芸伝習科入学試験に付各郡区役所へ依頼

校第一二一号

伝習科生徒試験ノ儀ニ付各郡区役所へ依頼案

本校農芸伝習科生徒募集ノ儀ニ付試験問題添校第八八号ヲ以テ試験ノ儀御依頼致置候処庁令第八号本校々則第四章第四十二条ノ見解ヲ異ニシ卒業後ハ官庁ニ採用セラル、モノト思維スルモノ及ヒ本道寄留者ニシテ開墾起業ノ目的アル旨ヲ以テ入校志願スルモ其実一時ノ好事ニ出テ前途ノ目的ナキ者往々有之哉ニ相聞得候一体本科ヲ設クル所以ハ本道農業ノ改良進歩ヲ謀ルノ主意ニシテ卒業後ハ直チニ実業ニ就カシムル儀ニ有之官庁ニ於テ採用服務セシムル儀ニ無之候間仮令試験問題合格者ト雖トモ以上ノ主意及ヒ第四十二条ノ諸項ニ適ハサルモノハ入校難差免ハ勿論ニシテ本校ニ於テ受験者応募書類ノミニテハ其実際ヲ知リシ難キニ付御試験ノ際ハ該条諸項ニ就キ合不合精細御取調併テ御報道相成候様致度此段重テ及御依頼候也

明治廿年四月一日

札幌農学校

各郡区役所宛

〔農三〇六〕

六六一 聖書講義のため復習講堂借用願出に付伺

明治廿年四月十四日

中根寿◎

校長代理◎(佐昌)

舎監◎(高田)

学生高林甲子治郎外十名より別紙之通り復習講堂借用願出ニ就てハ格別差支之筋も無之と被存候間願意御裁可相成り可然哉指令按相添此段相伺候也

指令按

願之趣聞届候事

但該場開閉之時ニ当直員ノ指揮ニ従ひ可申事

明治二十年 月 日 印(校印)

〔別紙〕

願 書

私共儀毎日曜日夜八時より十時まで御許可之上食堂ニ而聖書講義致居候処今般更ニ復習講堂拝借致度候間此段御許可被成下度偏ニ奉願上候也

明治廿年四月十四日

高林甲子次郎◎ 和田 健三◎

柳内義之進◎ 藤邨 信吉◎

寺尾 熊三◎ 川上八三郎◎

関口長一郎◎ 内村達三郎◎

札幌農学校御中

十時 一印 清水 由松印
佐藤末之丞印

〔農三一一〕

六六二 農園監督及び顧問任命に付通達

校第一四二号

農園監督及顧問之儀ニ付通達按

農園監督

助教 南 鷹次郎

農園顧問

雇教師ブルツクス

右之通校長代理ヨリ特命相成候条為念此段及御通達候也

明治二十年四月廿二日

札幌農学校

農 園

〔農三〇一〕

六六三 ストックブリッジに北海道庁化学師囑託の件

北海道拓地殖民事務上培養地質藥品類ノ分析ヲ要スル儀渺カラス候
ニ付自今貴下札幌農学校本務ノ外特ニ当庁化学師トナリ右事業担当
セラレ度及囑托候也

明治二十年四月廿七日

北海道庁長官岩村通俊印

札幌農学校教師ストックブリッジ貴下

〔ストックブリッジ九九〕

六六四 ストックブリッジ増給雇繼の件

校第一五五号

貴下儀本年五月十六日雇滿期之所尚従前之条約中第五条年俸日本銀
貨貳千五百円ヲ三千円トシ其他従前同一ノ約定ヲ以本年五月十七日
ヨリ明治二十一年八月十六日迄一ヶ年三ヶ月雇繼相成候条右受書御
差出可有之此段申遣候也

札幌農学校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

明治二十年四月廿九日

ホールレーズ、イ、ストックブリッジ貴下

〔農三〇一〕

六六五 農芸伝習科生徒契約書制定に付伺^(注)

明治廿年四月三十日

校長代理

幹事

伝習科生徒契約書ノ儀ニ付伺

書記鈴木武良印

助教印(南)

書記印(河田印(加藤)

本校々則第五号書式契約書ハ単ニ本科生ニ用ユルモノニシテ員外生

書 式

ニ適用難致廉有之ニ付左記ノ書式ニ拠リ為差出可然哉此段相伺候也

私儀今般農芸伝習科員外生徒被命候ニ付テハ在学中御校則堅ク相守可申ハ勿論万一御規則ニ背キ半途退校被命候歟又ハ不得止事故アリテ退校相願候節ハ賄料其他上納金有之時ハ即時上納可仕保証人連署此段契約仕候也

年 月 日

族籍住所 姓 名 印
族籍住所 保証人 姓 名 印

札幌農学校長宛

〔注〕 冒頭欄外に「校則第四十七条但書ヲ適用ス」印（佐昌）と朱書あり。

〔農三三六〕

六六六 農芸伝習科実習規則制定の達

校第一六一号

農芸伝習科

其科生徒実習規則別紙之通相定ム
右相達ス

札幌農学校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介 印
明治二十年五月二日

〔別紙〕

農芸伝習科生徒実習規則

第一条 実習ハ北海道ノ模範農家トナルヘキモノニ適切ナル農業法ヲ授クルモノトス

第二条 生徒ハ訓導其他係員ノ指揮命令ニ遵ヒ実習ニ従事スルニ当テハ動作活潑ニシテ遅疑怠慢ノ挙動アルヘカラス

第三条 第一期ハ専ラ普通ノ農業法ヲ実習シ第二期ハ家畜飼養及簡易ノ農産製造法ヲ実習スルモノトス

但第二年生中特ニ両三名ヲ撰拔シ適當ノ農圃ヲ割り渡シ自作農業ヲ為サシムルコトアルヘシ

第四条 訓導ノ口授及手教スル事実其他将来参考トナルヘキモノト認ムルトキハ手帳ニ記録シ置キ毎月ノ末ニ此レヲ訓導ニ出シ検閲ヲ受クヘシ

第五条 生徒ノ実習時間ヲ定ムルコト左ノ如シ
但シ学業ノ講授其他時宜ニ依リ該時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

* (1)

期	月	午 前	午 後	総 時 間
自 十月一日 至 三月三十一日		六時五十分ヨリ 十二時マテ	一時ヨリ 五時マテ	九時十分

(4)* (3)*

*(2)

九四	月 月	五時五十分ヨリ	一時ヨリ	十一時十分
自五月十一日	五時五十分ヨリ	七時ヨリ	十二時十分	
至八月三十一日	十二時マテ			

第六條 実習時間中ハ互ニ圃中ニ集合シ或ハ喫煙スヘカラス

第七條 農具及耕牛馬家畜等ノ使用ハ能ク注意シ決シテ粗暴ノ取扱ヲ為スヘカラス

第八條 生徒ハ輪番ヲ以テ当直ヲ置キ毎朝左ノ時間中家畜房ノ実習ヲナスモノトス

但シ本校則第五十條ノ場合ト雖トモ当直者ハ休業スルコトヲ得

ス

自十月一日至三月三十一日 午前五時三十分ヨリ六時三十分マテ

四 月 九 月 同 四時三十分ヨリ五時三十分マテ

自五月一日至八月三十一日 同 四時ヨリ五時マテ

第九條 訓導其他係員ノ指揮命令ニ背キ若シテハ第四條以下ノ條款ニ違犯スルトキハ懲罰ノ為メ相当ノ外業増時間ヲ課スルモノトス

*(1) 廿一年八月第五條ヲ左ノ如ク改正

期	月	午 前	午 後	總時間
自十月一日	自六時三十分	自一時		
至三月卅一日	至十二時	至四時三十分	九時	

*(2) 廿二年九月二日改正

九四	月 月	自五時三十分	自一時	十一時
自五月十一日	自五時三十分	自一時	十二時	
至八月卅一日	至十二時			

実業時間割

午後 午後

執業時間

四月 自六時三十分 至五時 九時三十分

五月 自六時 至五時三十分 十時三十分

六月 自六時 至六時 十一時

七月 自六時三十分 至五時三十分 (ママ)

八月 自六時三十分 至五時 九時三十分

九月 自六時三十分 至四時 八時

*(3) 廿一年八月第八條ヲ左ノ如ク改正

自十月一日至三月三十一日 午前自五時至六時

四 月 九 月 同 自四時至五時

自五月一日至八月三十一日 同 自四時至五時

*(4) 廿二年九月二日改正

畜房朝出時間

四月 自五時至六時

五月	六月	自四時三十分至五時三十分
七月	八月	自四時三十分至五時三十分
九月		自五時至六時
十月		自五時至六時
自十一月至三月		自五時三十分至六時三十分

〔農二九八〕

六六七 農芸伝習科学業課程制定の達

校第一六〇号

農芸伝習科

其科学業科程別紙之通相定ム

右相達ス

札幌農学校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介印

明治二十年五月三日

〔別紙〕

農芸伝習科

学科細目

一 農学大意

一 土壤農具及肥料論

三 普通及特有植物耕種法

二 農用動植物生理

四 牧畜論

五 果樹栽培法	六 開墾及排水法
七 農圃測地法	八 農家簿記法
九 農場管理法	十 農家經濟及農律
十一 山林及氣象学	

一 化学原理大意
一 害虫駆除法大意
一 蹄鉄学大意
一 家畜治療法大意

講授科程

第一年

第二期

一 土壤農具及肥料論	每週五時
一 排水及開墾法	同 二時
一 農用植物生理	同 四時
一 果樹栽培法	同 二時
一 農用簿記法	同 一時
一 化学原理	同 四時
一 害虫駆除法	同 三時
一 普通及特有植物耕種法	同 四時

第二年

第二期

一 農場管理法 每週二時

一 山林及氣象学 同 三時

一 農家經濟及農律 同 三時

一 動物生理 同 三時

一 牧畜論 同 四時

一 病畜治療法 同 五時

一 蹄鉄学 同 一時

一 農圃測地術 同 二時

期節ノ遲速ニ依リ第一期中ニ講授ヲナスコトアルヘシ

実習科程

第一年

第一期

一 耕牛馬使役

一 農具使用

一 家畜飼養

一 製肥法

一 穀菽蔬菜類ノ耕種、收穫、及貯藏法

一 乾草法

一 排水及開墾法

一 製乳法

第二期

一 家畜飼養法

一 製乳法

一 炮腿製造

一 苗床仕立及移植法 一 臨時外業

第二年

第一期

一 穀菜栽培等前年ニ同シ

一 麻ノ栽培及製麻法

一 乾草法

一 果樹栽培法

一 種子類ノ耕種收穫及貯藏法

一 澱粉製造法

一 果実応用製造法

一 製乳法

一 家畜飼養

第二期

一 製乳法

一 搾乳法

- 一 火腿製造法
- 一 家畜飼養法
- 一 澱粉製造法
- 一 臨時外業

〔農二九八〕

六六八 予備科生徒卒業後の専修学科届出の件

明治二十年五月三十日仕出

舎監高田信清印

校長代理印(佐藤)

舎監印(中根)

専修学科届出ノ件上申

予備科第一級生清水郁蔵外拾参名ヨリ卒業後専修学科別紙之通り届出候間玆ニ此段上申候也

〔別紙〕

予備科卒業後専修スヘキ学科届出人名

農学	清水	郁蔵	同	星野和太郎	工学	唯是	丙助
農学	鈴木	近吉	工学	小野 常治	農学	池内	徳孝
同	小倉	延足	同	吉村喜一郎	同	高田小十郎	
同	宮崎	太郎	工学	宮崎繁太郎	農学	荒井	寅治
同	池田	和吉	同	神 雄之助			
病氣ニ付休学願出	小田切栄三郎						

計	農学	拾岩名
	工学	参名
休学願	老名	

〔農三一二〕

六六九 明治二〇年度経費予算通達

其部二十年度経費予算別紙之通相定ム

明治二十年六月二日

北海道庁長官岩村通俊印

農 学 校

〔別紙〕

農学校経費

一 金四万八千貳百六拾貳円

農学校費

内

金五千貳百円	奏任俸給
金九千三百六拾円	判任俸給
金八千九百貳拾円	傭員俸給
金貳拾円	諸手当
金五千六拾円	傭人料
金六百円	恵与
金千八百三拾円	器具器械費

金七百拾五円

金百三拾五円

金七百七拾五円

金貳千七百六拾老円

金百六拾円

金千七円

金九百四拾九円

金八千貳百七拾円

金五百円

金貳千円

右之通

図書及印刷費

筆紙墨文具

消耗品

標本及試験費

卒業証書授与式費

雜費

旅費

学生費

新當費

修繕費

〔農八五五〕

六七〇 農学校卒業生工科大学入学依頼に付回答

乙第一九五号

五月廿六日付ヲ以テ本年秋季貴校卒業学生之内工科大学正科ニ入り云々御照会之趣致承知候右者分科大学入学規程ニ背違シ直ニ入学許可候儀難相成候得共其履修ノ学科課程及修業試験ノ成績検定ノ上無試験ニテ入学許可候儀モ可有之候間本人ノ精細ナル学業履歴書其他要用ノ書類工科大学へ差出候様御示達相成度此段及御回答候也

明治二十年六月十日

帝国大学書記官永井久一郎 印

札幌農学校校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介殿

追而直ニ撰科ニ入り候ニハ試験ヲ要セス且撰科入学後本人修学ノ実績ニ依リテハ無試験ニテ正科ニ転シメタル先例有之候条此段申添候也

付 農学校卒業生帝国大学無試験入学に付依頼

校第一八七号 帝国大学正科へ入学ノ儀ニ付文移按

本年秋季本校ヲ卒業可致学生ノ内ニテ卒業後貴大学正科ニ入り製造化学専修志願ノモノ有之候処右ハ御試験ヲ不受直ニ入学御許可ノ事ニハ相成申間敷哉已ニ米国カンブリチ府ハーバツト或ハバルチモール府ジョンスホブキンス大学等ニ於テハ試験ヲ要セス直ニ大学院生トシテ入学許可ノ例モ有之候ニ付是等ニ準シ特別ヲ以直ニ正科へ入学御許可相成候致度候条御取調ノ上何分御垂示ヲ煩度此段及御依頼候也

札幌農学校校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

明治二十年五月廿八日

帝国大学書記官御中

〔農三〇六〕

六七 校長限り処分事項制定の件

北海道庁訓令号外

札幌農学校長

其校長限り処分スルヲ得ル事項左ノ如シ

明治二十年六月廿日

北海道庁長官岩村通俊

札幌農学校校長限り処分事項

第一 校員分掌ヲ定ムル事

第二 校務取扱手續ヲ定ムル事

第三 雇員以下進退ノ事

但懲戒ハ此限ニアラス

第四 校員管内出張ノ事

第五 校員婦省墓参転地養病願許否及除服ヲ命スル事

第六 雇員以下一周年末ニ於テ賞与手当金給与ノ事

第七 学生生徒募集入学及退学ノ事

第八 課程及授業時間割ノ事

第九 学生生徒へ卒業証書ヲ付与スル事

第十 学生生徒野営及ヒ近傍行軍演習ノ事

第十一 博物見本採取又ハ學術研究ノ為メ学生生徒ニ管内旅行ヲ許

可スル事

第十二 学生生徒給与金品ヲ交付スル事

第十三 本校刊行書或ハ博物学用見本物品他ノ学校等ト交換スル事

第十四 博物場及温室ノ縦覧日時ヲ定ムル事

第十五 生産物及製造物ヲ売却スル事

第十六 相当代品若クハ分析料戻入ノ約ヲ以テ分析ノ依頼ニ応スル

事

第十七 他管庁又ハ人民所有ノ物品博物場へ陳列ヲ許可スル事

第十八 本校所屬家畜交尾願許否ノ事

第十九 校務ニ関シ校長若クハ校名ヲ以テ文書往復ノ事

〔農二九二〕

六七 予備科課程制定の達

校第二三四号

本校予備科生徒各級課程及授業時間別紙ノ通相定ム

右相達ス

札幌農学校校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

印

明治二十年七月九日

〔別紙〕

予備科

第四級前期

一 英語（綴字、書取、会話等）

六時

一 読法及訳読

六時

一 和漢学

六時

一 習字

六時

同 後期

一 英語（綴字、書取、会話等）

六時

一 読法及訳読

六時

一 地理書

四時

一 和漢学

六時

一 習字

二時

第三級前期

一 英語（綴字、書取、作文等）

三時

一 読法及訳読

三時

一 文法

三時

一 算数学

六時

一 地理書

六時

一 和漢学

三時

同 後期

一 英語（綴字、書取、作文等）

三時

一 読法及訳読

三時

一 文法

三時

一 算数学

六時

一 歴史

六時

一 和漢学

三時

第二級前期

一 英語（書取、作文、^[A]唱論等）

三時

一 読法及訳読

六時

一 歴史

六時

一 算数学

六時

一 和漢学

三時

一 体操

二時

同 後期

一 英語（書取、作文、^[A]唱論等）

三時

一 読法及訳読

六時

一 健全学

三時

一 植物学大意

三時

一 代数学

六時

一 和漢学

三時

一 体操

二時

第一級前期

英語（作文、訳文、演説等）	二時
読法及訳読	三時
修辭	三時
物理学大意	三時
動物学大意	三時
代数及幾何学	五時
和漢学及翻訳	三時
自由画法	一時半
体操	二時
同 後期	
英語（作文、訳文、演説）	二時
英文和訳	一時
英文学	三時
化学原理	三時
地文学	五時
幾何学	五時
自由画法	一時半
体操	二時

〔農一九二〇〕

六七三 農芸伝習科員外給費生募集の儀伺

番外

伝習科員外給費生募集ノ儀伺

北海道土地払下規則ノ御施行其他殖民拓地奨励ノ御旨意ニ從ヒ開墾ニ従事スルモノ日ニ月ニ増加シ自然当道ノ実地ニ熟練シ農家ノ模範トナルヘキモノ多数ヲ要スベキ状勢ト被察然ルニ本校農芸伝習科ハ右現業熟練ノ農家ヲ養成シ当道実地ノ需要ニ供スヘキ義ニ候得共全道ノ広キ現員ニテハ到底普及ニ由ナク開墾起業上實際差支候義も可有之候ニ付テハ這回更ニ該科員外給費生徒貳拾五名ヲ召募シ養成ノ上予備ニ供シ可然哉至急御指揮相成度此段相伺候也

但シ本文御裁可ノ上ハ本年九月ヨリ二十一年三月迄生徒給費金八百七拾五円ハ二十年度経費既定額ヨリ支弁ノ途無之ニ付別途御下附相成候様仕度此段伺添候也

明治二十年七月十九日

校長代理

長官宛

付 右の件許可

札幌農学校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

明治二十年七月十九日付番外伺伝習科員外給費生募集ノ件ハ許可ス

明治二十年七月廿二日

北海道庁長官岩村通俊 印

〔農八五五〕

六七四 卒業後の身分進退に関する校則追加の件

(令第七拾七号) 七月二十三日

明治二十年^三北海道庁令第八号札幌農学校々則中改正追加ヲ為ス左ノ如シ

第四十七条 生徒卒業後滿五ヶ年間其身分進退ニ就テハ北海道庁長

官ノ認可ヲ受クヘシ従前ノ第四十七条以下逐条繰下ク

第五号書式本文中勿論ノ下(卒業後ハ御校則第四十七条ニ依リテ進退可仕)ノ二十字及ヒ左ノ奥書ヲ加フ

前書保証人誰儀丁年以上ニシテ当郡区内ニ住シ一家計ヲ立ルモノニ相違無之候也

年 月 日 何 郡 長 姓 名 印

〔北海道庁布令全書〕

六七五 数学物理学英語教師米國より雇入の儀稟請

第四一一号

外国教師雇入之義稟請

当庁所轄札幌農学校ニ工学科ヲ設置シ当道ニ適切ナル道路土工排水

築造等ノ諸技芸ヲ教授致候ニ付テハ右工學ト密接ノ關係アル数学及物理学ノ義ハ必要ノ學課ニシテ專修ヲ要シ候ニ付特ニ専門ノ教師ヲ置キ授業為致度又タ本校農工兩科學生ノ義ハ予備科ヨリ入ルノ順序ナルニ付予備科ニ於テ充分英學修業學力準備セシムヘキ義ニ付該科高等級ニ於テハ是又外國教師ヨリ親シク受業セシメ度然ルニ外國教師ニシテ人撰其人ヲ得候時ハ右数学物理学英語ヲ兼テ教授可致モノ有之候得共本邦人ニシテ右三學ヲ兼ヌルモノハ到底其人ヲ難得之ヲ兩名ノ教官ニ分任セントスルモ数学物理学ノ如キハ學理頗ル高尚ニ涉リ候モノニ付本邦ニ於テ研究修學ノ上更ニ海外ニ於テ專修シタルモノニ非サレハ授業上差支候義モ有之而シテ如此學士ハ之ヲ得ルコト寔ニ至難ニシテ且下ノ需要ニ応シ難シ因テ右札幌農学校数学物理学英語教師トシテ米國人一名往返旅費ヲ給シ向フ三ヶ年間年俸貳千五百円ヨリ三千円マテノ内ヲ以テ雇入申度尤モ該俸給并旅費ハ札幌農学校經費予算内ヨリ支辨ノ見込ニ候間御裁可相成度別紙計算書相添此段稟請候也

明治廿年八月十八日

北海道庁長官岩村通俊 印

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

〔朱書〕
〔稟請ノ趣認許ス〕

明治二十年九月十六日

〔別紙〕

旅費概算書

一 金四百八拾三円

米国紐育ヨリ横浜迄旅費

内

金百八拾円

紐育ヨリ桑港迄

金三百三円

桑港ヨリ横浜迄

ノ

〔公文類聚一一二九〕

六七六 山口彦次郎へ画学授業嘱託の儀伺

番外

画学授業嘱託致度儀伺

北海道尋常師範学校助教諭山口彦次郎へ本校画学授業ヲ嘱託致シ報酬トシテ壹ヶ月金五円支給致シ可然哉此段相伺候也

明治二十年八月二十日

校長代理

長官宛

追申右山口彦次郎へ画学授業嘱託ニ付テハ齊藤師範学校校長へ協議済ニ御坐候此段申上添候也

付 右の件許可

校長代理農学校幹事佐藤昌介

明治廿年八月二十日付番外伺画学授業嘱託之件へ許可ス

明治廿年八月廿二日

北海道庁長官岩村通俊

印

〔農八五五〕

六七七 農工両学科課程及び時間割制定の達

校第二九〇号

本校農工学科各級課程及授業時間割大約別紙ノ通相定ム
右相達ス

札幌農学校校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

印

明治二十年八月三十日

〔別紙〕

農学科課程及授業時間割

初年級前期

農学

午前

午後

無機化学

五時

生理学及健全学

四時

英語

三時

幾何三角術

三時

農業実習

四時

練兵

二時

同	後期	農學	四時	農用化學	四時
		分析化學	八時	植物學	五時
		英語	三時	物理學	五時
		三角術及測量術	五時	歷史	三時
		画法及製圖	三時	農業實驗	無定限
農業實習			六時	練習	二時
練兵			二時	農學	三時
同	後期			植物學	五時
農學				動物學	三時
				應用化學	三時
				經濟學	四時
				物理學	五時
				氣象學	二時
				植物學用顯微鏡用法	二時
				農業實驗	無定限
				練習	二時
農業實習			六時	同	後期
練兵			二時	農學	五時
同	後期			動物學及水產養成法	五時
農學			三時		

地質学	五時		練兵	二時
農業經濟	三時		工学科課程及授業時間割	
山林学	三時		初年級前期	午前
農業実験		無制限	幾何学及三角術	三時
練兵		二時	無機化学	五時
第四年級前期			英語	四時
農学	三時		生理学及健全学	三時
獣医学	六時		幾何画法	三時
昆虫学	三時		製図	
農政	三時		練兵	無制限 二時
地方制度	三時		同	後期
學術講談		二時	三角術及測量術	五時
農業実験		無制限	分析化学	八時
練兵		二時	英語	三時
同			実地測量及製図	無制限
農学	四時		練兵	二時
獣医学	六時		第二年級前期	
殖民策	四時		代数幾何学	五時
卒業論文			重学	三時
學術講談		二時	地誌学及高低測量術	五時

[illegible]

練兵

二時

追加馬術芸古ハ時々指定スル処ニ依ル

〔農二九二〕

農園係

雇 梁田 照一
雇 伊藤金次郎

六七八 乗馬実習及び農芸伝習科演習等の分担に付上申

明治二十年九月十二日仕出

助教南鷹次郎 印

校長代理 印(佐藤)

訓導 印(田中)印(小室)印(照井)

書記 印(河田)印(鈴木)

本科生乗馬実習

伝習科係 田中芳四郎
訓導 鈴木 武良
書記 梁田 照一
同 梁田 文平
雇 藤田 文平

第一五七号

事業及演習分担ノ義上申

本科生乗馬実習併ニ伝習科演習及農園事業分担左記之通り取極メ候
ニ付此段上申候也

伝習科試作

〔別紙〕

事業係及実習分担

伝習科係

一 開墾実験(第老号) 第一年生
一 大麻及穀類試作(第二号) 第一年生

以上

主任 鈴木 武良
補助 石川 金平

訓導 田中芳四郎
書記兼 鈴木 武良
訓導 照井 徳治

一 牧畜実験(第四号) 第一年生

主任 田中芳四郎
補助 石川 金平

訓導 小室 昌睦
雇 石川 金平

一 穀菜類試作(第三号) 第一年生
一 開墾実験(第六号) 員外生

穀菜試作(第五号)員外生	照井 徳次	以上	照井 徳次
伝習科演習	小室 昌睦		
蔬菜及種子類栽培收穫及貯藏法			
苗木仕立及移植法			
家畜管理法			
果樹栽培法			
搾乳法	田中芳四郎	以上	番外
穀類栽培收穫及貯藏法			
麻類其他特有植物栽培法			
開墾法			
製肥法			
製麻法			
澱粉製造法	鈴木 武良	以上	
排水法			
製乳法			
火腿製造法			
果実応用製造法			

一 耕牛馬使役法 以上 照井 徳次

一 農具使用法

一 乾草法

以上

小室 昌睦

〔農三〇七〕

六七九 物理学数学英文学教師選舉方に付伺

本校雇教師撰挙方之儀ニ付伺

今般本校物理学数学英文学教師一名米国ヨリ雇入ノ儀御認可相成候
ニ付テハ先年北米加奈他領「トロント」大学卒業爾後教育ニ従事当
今合衆国「マレイラント」州「ホルチモール」府「ジョンズ、ホプ
キンス」大学院研究生タル理学士ミルトン、ヘート氏其適任ト相認
メ候ニ付在華盛頓府九鬼公使へ御照会ノ上同公使ヨリホプキンス大
学総長キルマン氏へ協議ヲ遂ケ果シテ適任ト認定ノ上ハ別紙ニ準シ
年俸日本銀貨貳千五百円ヲ給シ向三ケ年間雇入条約取結相成候様仕
度尤該学士ニ於て自然事故有之雇聘ニ応スル能ハサルカ或ハ又た教
頭ニ於テ推薦難相成義も有之候ハ、更ニ適任ノモノ撰挙条約方共同
公使へ御委託相成度該御照会按相添此段相伺候也

但ホブキンス大学総長キルマン氏へハ御下命ノ趣ヲ以テ別紙^{〔注〕}ノ通
小官ヨリ申向ケ可然哉此段伺添候也

明治二十年九月廿八日

校長代理

長官宛

〔注〕「九鬼公使へ御照会按」「ホブキンス大学総長へ

移文按」「条約案」「改正案」を略す。

付 右の件許可

札幌農学校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

明治二十年九月廿八日番外伺雇教師撰筆方之件ハ認可ス

但ホブキンス大学総長へハ申出ノ通取計フヘシ

明治二十年十月三日

北海道庁長官岩村通俊^{〔印〕}

〔農八五五〕

六八〇 ミソマップ開墾着手の儀伺

明治廿年十月廿六日仕出

助教南鷹次郎^{〔印〕}

校長代理^{〔印〕}（佐藤）

訓導^{〔印〕}（鈴木）^{〔印〕}（田中）

書記^{〔印〕}（河田）^{〔印〕}（加藤）^{〔印〕}（鈴木）

第三四〇号

開墾着手ノ義伺

今般御交附相成候常山溪道路ニ治フ荒蕪地ノ開墾法方書ハ追而実地
精密踏検ノ上更ラニ調査可致答ニハ有之候得共差掛リ別紙ノ順序ヲ
以テ明廿七日ヨリ開墾ニ着手候而可然哉此段相伺候也

〔別紙〕

開墾着手ノ順序

一 開墾ハレシレツ川ヨリカラ沢ニ至ルノ土地トマスノ沢ヨリイチ
ノ沢ニ至ルノ土地ニケ所ニ就テ着手スルノ見込

一 開墾ノ法方順序等細節ノ事項ニ至リテハ実地精密ノ踏検ヲナス
ノ後チニアラサレハ調査ヲ為シ難シト雖トモ先ツ左ノ三法ヲ実施
シ其優劣便否等ヲ查考シ後來ノ参考ニ供セントス

第一 牛力及機械^{〔新製機〕}ヲ施用シテ開墾スルコト

第二 単ニ人夫ヲ使役シテ開墾スルコト

第三 受負ヲシテ開墾スルコト

一 伝習科生徒ハ開墾実地演習ノ為メ来年五月以降一組宛^{〔七名若シクハ八名〕}
交互ニ派出スルノ見込

一 ミソマップ川ヨリカラ沢ニ至ルノ間ニ後來農場ニ充ツヘキ適當
ノ位置ヲ撰トシ仮小屋ヲ設ケ開墾略ホ竣功スルノ時ニ至リ漸次農
場家屋ヲ建設スルノ見込

一 係員ハ当座ノ中雇員一名現業者三名ノ見込

一 耕牛馬^{〔耕牛四頭 耕馬二頭〕}ハ且下六頭ヲ備ユルノ見込即チ別紙^{〔注二〕}算書ノ通

リ購入ノ積

一 農具及備付品ハ農園備付ノ内ヲ以テ使用シ目下必要ノモノ若シクハ来年度耕種ノ時ニ至リ入用ノ農具ハ今年度經費ノ内ヲ以テ新調シ差掛リ必要ノ分即チ拔根機唐鋤耒馬車ノ類ハ当地鉄工場ニ於テ新調シ他ハ外国製品ヲ購入スルノ見込即チ農具調書^(注二)ノ通一 開墾ニ要スル經費ハ農園經費ノ内残余見込ノ金額ヲ以テ各科目内ノ流用手続ヲ経ヘ別紙予算書ノ通り支用致シ度キ見込

〔注一〕 開墾予算調書を略す。

〔注二〕 農具調書を略す。

〔農三三〇〕

六八一 助教訓導等定員制定の件

訓令号外

札幌農学校長代理札幌農学校幹事佐藤昌介

其校助教訓導舎監書記每等定員左ノ通之ヲ定ム

明治二十年十一月五日

北海道庁長官岩村通俊

〔印〕

札幌農学校助教訓導舎監書記每等定員表

官名	官等									
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
助教	六人	三人	三人	三人	壹人	壹人	壹人	壹人	〇	〇
訓導	〇	〇	〇	〇	壹人	貳人	貳人	壹人	〇	〇
舎監	〇	〇	〇	〇	壹人	〇	〇	〇	〇	〇
書記	〇	〇	壹人	壹人	貳人	壹人	壹人	〇	〇	〇

〔農四〇九〕

六八二 農芸伝習科生徒試作の儀伺

明治廿年十一月八日仕出

助教南鷹次郎

校長代理

〔印〕(佐藤)

訓導

〔印〕(田中)〔印〕(鈴木)〔印〕(照井)〔印〕(小室)

書記

〔印〕(河田)〔印〕(鈴木)〔印〕(加藤)

第二三八号

伝習科生徒試作之義伺

伝習科実習規則第三条ニ依リ別紙試作調書ニ基キ試作実行為致候而可然哉左ニ試作及開墾試験例規相添ヘ此段相伺候也

〔別紙〕

試作及開墾試験例規

第老条 試作ハ泰西農場ノ組織ニ倣ヒ本道模範農家ニ適スヘキ各種農場ヲ仮設経営スルノ目的ニシテ其事業ノ成功程度及取支損益ヲ

明ニシテ以テ各種農場ノ得失關係等ヲ実地研究スルモノトス

第貳条 開墾試験ハ農場ノ開設準備起業ノ法方順序等ヲ実地講究ス

ルモノトス

第三条 試作及開墾試験ノ法方毎日ノ執務等ハ担任訓導ノ指揮ニ随

ヒ予メ編制スル所ノ法方書ニ基キ施行スルモノトス

第四条 生徒ヲ三組ニ分テ一組ハ六名以上拾五名以下ノ員数ヲ以テ

組織ス但シ第二年生ニ限り之レヲ施行スルモノトス

第五条 毎組ニ試作園若シクハ開墾試験地ヲ区劃分付シ其事業ニ関

スル一切ノ事ヲ負担実施セシム但シ試作園ノ面積ハ二拾町歩以内

ヲ以テ之レニ充ツルモノトス

第六条 耕牛馬及農具ハ法方書ニ基キ仮リニ其数ヲ定メ毎組ヲシテ

此レヲ管理セシム但シ不足アルモノハ各組互ニ之レヲ流用スルモ

ノトス

第七条 毎組ニ日誌及農業簿記ヲ備ヘ担任訓導ノ指揮ニ随ヒ日々起

ル所ノ事項物品出納等ヲ詳細登記セシムルモノトス

第八条 各組ノ担任訓導ハ毎月一回其組ノ事業成績ヲ全級ニ講授筆

記セシムルモノトス

第九条 事業執務ノ順序ハ実習規則ニ拠ルモノトス

〔農三三六〕

六八三 ミルトン・ヘート条約書

条約案

明治廿年十一月廿三日即チ西曆一千八百八十七年十一月廿三日第一方ハ亜米利加合衆国駐劄日本皇帝陛下ノ臨時代理公使赤羽四郎日本帝国政府ニ代リ（以下日本政府或ハ第一方ト称ス）第二方ハ亜米利加洲加奈太邦オンタリオ府住ミルトン、ヘート（以下第二方ト称ス）ト結約スル條款左ノ如シ

第一条

右第一方ハ此約定ニ因テ右第二方ヲ雇入レ同氏ハ此約書調印次第成ルヘク速ニ日本ニ向テ出発シ日本東京ニ着到シタル日ヨリ三個月間物理学数学及英文学教授トシテ北海道庁長官ヨリ命セラレタル地方及学校ニ於テ日本政府ニ奉職ス可キヲ約ス

第二条

第二方ハ亜米利加合衆国マリランド州バルチモール府ヨリ日本東京迄ノ旅費トシテ日本銀貨四百五拾円或ハ其同価ノモノヲ受クベシ

第三条

第二方ハ日本到着次第直ニ北海道庁長官ヘ到着届ヲ為シ雇期限内ハ同長官命スル処ノ校長又ハ代理ノ命令ヲ遵奉シ北海道庁ノ規則

法令ニ一切違背スベカラズ

第四条

第二方ハ信実勉勵其職務ヲ奉シ謹慎ナル可シ且校長若クハ代理者ノ許可ナクシテ其職務中欠席或ハ他行ス可カラス而シテ其全力ヲ日本政府ニ尽シ直接間接ノ別ナク商業其他職外ノ事業ニ關係ス可ラス

第五条

約定期限中年俸日本銀貳千五百円ト定メ之ヲ十二個月ニ割り毎月日本銀貳百五十円ハ北海道庁ノ都合ニ依リ同相場ノ紙幣ヲ同氏ヘ払フ可シ尤モ此給料ハ同氏若シ不幸ニシテ死去シ或ハ放免又ハ約定満期ノ日ニ廃スルモノニシテ此給料ハ奉職セシ毎月ノ末ニ払フモノナリ即チ第一ノ渡方ハ上文載スル所ノ如ク同氏日本東京ヘ到着ノ日より起算シ尙ケ月ニ於テスルモノトス（但會計上ノ都合ニ依リ給料渡方ハ現曆月端日數ハ日割ヲ以テ計算シ其月ノ勘定ヲ終フルコトアルベシ）双方トモ不得止都合ニ因リテ雇ヲ止メ又ハ免職セントスルトキハ三個月前ノ報知ニテ廢約スルヲ得可シ第一方ヨリ此約定ヲ廢スルトキハ解約ノ日ヨリ向フ二個月ニ相当スル給料ノミ第二方ニ渡スベシ若シ第二方ヨリ請求スルトキハ現ニ奉職スル迄ノ給料ノミヲ相払ヒ直ニ廢約スベシ

第六条

約定期中ハ日本政府ヨリ第二方ヘ家具ヲ備ヘサル適宜ノ家屋ヲ給

シ或ハ北海道庁ノ都合ニ依リ家屋ノ代リ家税トシテ満現曆月毎ニ日本通貨貳拾円ヲ給スベシ尤モ月端日數ハ日割ヲ以テ計算スヘシ但本条ノ家屋ヲ給スル場合ニ於テハ修繕ハ第一方ニ於テ負担スヘシト雖トモ第二方ハ家屋内部ノ構造替又ハ建増ヲ請求スルヲ得ス

第七条

第二方職務上旅行ノ節ハ北海道庁施行ノ例規ニ照シ要用ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八条

約定期限中第二方ニ於テ若シ病氣怪我或ハ其他ノ事故ニ因リ（下文但書ニ記スル所ヲ除ク）連二ヶ月間就職シ能ハサルカ或ハ期限中第二方ニ於テ何時ニ拘ハラス病氣ニ罹リ或ハ怪我シ其カ為メ（医員二名公然北海道長官ニ呈スル診断証書ニ依ル）残期限中就職シ能ハサルカ又ハ就業ニ甚タ差支ユルコトアル場合ニ於テハ（下文但書ニ記スル処ヲ除ク）北海道庁長官ハ右第二方ノ就業シ能ハサルコトタトヒ二個月ノ期限（或ハ其他ノ期限）ニ及ハサルモ直ニ解約スルノ權アルヘシ而シテ第二方ハ斯ク解約セラレタル上ハ其残期限ニ対シ此約定ニ載セタル給料或ハ其他ノ利益ヲ得ルコト能ハサルモノトス尤モ日本政府ハ日本ヨリ合衆國マリランド州バルチモール府迄ノ旅費トシテ日本銀貨四百五十拾円或ハ日本政府

ノ都合ニ依リ同相場ノ紙幣ヲ右第二方ニ給与スヘシ

但右様ノ怪我或ハ病氣ハ第二方ノ不注意或ハ等閑ニ因ルコトナク其職務執行ヨリ直接ニ生シ或ハ直接ニ起因シタル場合ニ於テハ（但其事実ハ医員二名ヲシテ之ヲ査定保証セシムルコト尚前文ニ記スル如シ）本条ノ約束ニ依ラスシテ此条約ヲ（日本政府ノ関スルダケハ）遵守履行シ第二方ハ其患後従事シ得ルタケノ職務ヲ執行スルヲ要スヘシ

第九条

第二方ハ此約定ヲ遵奉シ三箇年間満期迄日本政府ニ奉職シ満期後三箇月中ニ亜米利加合衆国マリランド州バルチモール府迄帰航スル時此際ニ限り日本政府ハ合衆国迄ノ旅費トシテ日本銀貨四百五十拾円或ハ日本政府ノ都合ニ依リ同相場ノ紙幣ヲ給スヘシ

第十条

若シ第二方不行跡或ハ上文ニ載スル所ノ約定中ノ件ヲ犯シ或ハ意ルトキハ北海道庁長官ハ直ニ此約定ヲ廃止ス可シ然ルトキハ此約定上ノ給料及其他ノ便益ヲ第二方ニ於テ請求スルノ権理ハ此時ニ於テ廃棄スルモノトス

右約定ヲ証スル為メ本書日本英文各式通ヲ作り上文記載ノ年日各其名ヲ手記調印スルモノナリ

赤羽四郎^⑨

Milton Haight

右証人

三崎亀之助

〔「ト」〕

六八四 札幌農学校一覽出版の儀伺（二月二日仕出）

学第五〇号

本校一覽出版之儀伺

別冊^{自明治二十年}札幌農学校一覽編纂候ニ付出版ノ上売捌人ニ付シ定価金貳拾五錢ヲ以テ発売為致度別紙内務大臣ヘノ御届按相添此段相伺候也

明治二十年十二月 日

校長代理

長官代理宛

〔別紙〕

（御届案）

出版届

一 札幌農学校一覽^{自明治二十年} 五百冊

明治二十一年一月出版

右ハ今般当庁所轄札幌農学校ニ於テ出版為致度此段及御届候也

明治二十年十一月 日

長官

内務大臣宛

付 右の件許可

札幌農学校幹事佐藤昌介

明治廿年十二月廿三日学第五十号伺札幌農学校一覽出版ノ件ハ許可

ス

明治二十年十二月廿六日

北海道庁長官岩村通俊代理

北海道庁理事官佐藤秀顯印

〔農八五五〕

明治 20 年

六八五 卒業生人名族籍宿所及び職業調（二〇年カ）

卒業生人名族籍及宿所職業

職 業	宿 所	族 籍	姓 名
札幌農学校米國留學生 北海道庁属		東京府士族	荒川 重秀
北海道庁属	北海道函館区元町七十二番地	静岡県士族	小野 兼基
同 米國	同 札幌区北一条西六丁目一番地	東京府平民	伊藤 一隆
同	同 同南二条東一丁目西第二号官舎	北海道平民	佐藤 勇

札幌農学校教授 〔イマ〕 茨城県尋常中学校長	同 同北一条西一丁目一番地	岩手県平民	佐藤 昌介
北海道庁属	茨城県水戸	静岡県平民	渡瀬寅二郎
北海道庁属	北海道函館汐見町十番地	三重県士族	柳 本 通義
宮内省属	東京北品川宿	高知県士族	田内 捨六
北海道庁属	北海道静内郡新冠牧畜場内官舎	高知県士族	黒岩四方之進
札幌農学校助教	同 札幌区大通西三丁目五番地	高知県士族	内田 瀨
米國遊歴	同 同北一条西六丁目一番地	北海道平民	大嶋 正健
札幌農学校 米國留學生校	瑞州カムブリッジ ハーバード大学	群馬県士族	内村 鑑三
文部省属	東京本郷区駒込西片町十番地	東京府士族	宮部 金吾
	大坂府下難波新地六番町十八番地	広島県士族	高木 玉太郎
	米国デラウェア ンチムニアステ ーション	大阪府平民	岩崎 行親
	ジョンズホップ キンス大学	高知県士族	広井 勇
米國遊歴	北海道札幌区大通西三丁目七番地	東京府士族	太田 稻造
札幌農学校助教	札幌郡苗穂村三十八番地	長崎県士族	南 鷹次郎
北海道庁技手		北海道平民	藤田 九三郎

北海道庁属	同 同北二条西四丁目七号官舎	東京府平民	足立 元太郎	農商務省属	東京下谷仲御徒町三丁目三十五番地	千葉県士族	梶山 清利
福島県尋常中学校二等教諭	福島県北会津郡若松栄町四丁目三百六十番地	静岡県平民	佐久間 信恭	山口県属	山口県吉敷郡山口町間田町九番地	島根県士族	高岡 直吉
北海道庁属	北海道札幌郡真駒内種畜牧牛場内官舎	福井県士族	町村 金弥	鳥取県中学校二等教諭	鳥取	滋賀県士族	武藤 亥三郎
北海道庁属	北海道札幌区北一条西二丁目一番地	北海道士族	調所 恒徳	徳島県中学校一等教諭兼第二部第三課長		愛媛県平民	諏訪 鹿三
同	同有珠郡紋籠村紋籠製糖所内官舎	鹿児島県士族	堀 宗一	新潟県農学校二等教諭	新潟県下古志郡長岡鶴光院町五番地	長崎県士族	鶴崎 条一
愛知県師範学校教諭	愛知県名古屋区富沢町百一番地	静岡県士族	小島 喜作	内閣属	東京市麹町区平川町三丁目拾番地寄留	島根県平民	頭本 元貞
長野県師範校出仕	長野県長野阿湯町	北海道士族	中根 明	海軍少主計	扶桑艦乗込住所未詳	福岡県士族	結城 祥吾
北海道庁属	札幌	新潟県士族	梅野 四万吉	札幌農学校助教	北海道札幌区南五条西五丁目	青森県士族	佐瀬 辰三郎
岐阜県尋常師範学校三等教諭	岐阜 岐阜	新潟県士族	斎藤 祥三郎	横浜ヘラルド新聞社	長野県長野町新道六百三十一番地	愛知県士族	志賀 重昂
北海道庁属	北海道根室郡根室清隆町三号官舎	赤壁 二郎		在朝鮮日本公使館	青森	山口県士族	三増 条吉
北海道庁属	北海道根室郡根室清隆町一号官舎	京都府士族	伊吹 鎗三	愛媛県尋常師範学校二等教諭	愛媛県松山西町十七番地	兵庫県平民	山下 敬太郎
北海道庁属	根室	東京府士族	久島 重義	山梨県農学校三等教諭	山梨県六隅町農事講習所内	山口県平民	福原 鉄之輔
山形県農事講習所教師兼幹事	山形県南村山郡山形旧千歳園西側十三番地寄留	山形県士族	尾泉 良太郎	高知県海南学校教授	高知県高知町海南学校舎内	岡山県士族	北郷 文五郎

札幌農学校米國留學生	米國マレーランド ホールチモールジ ヨンスホブキンス 大学	静岡県土族	渡瀬庄三郎	長野県尋常師範 学校出仕	長野県	新潟県土族	榎 忠一郎
福岡中学校一等 教諭	福岡	岩手県平民	菊地熊太郎	農商務省属	東京麹町区富士見 町二丁目三十三番 地中保方	福島県土族	下島孝吉
茨城中学校	茨城県水戸	東京府土族	河村九淵	東京府豊島郡中泖 谷村百二十番地	宮城県土族	大町 信	
長野県中学校教 諭	長野県松本 長野県中学校内	島根県平民	武信芳太郎	米 国 遊 歴	計六拾七名	福井県土族	小野三郎
岐阜県尋常中学 校	岐阜県上加納村高 巖町二十七番地	京都府土族	手嶋 十郎	卒業生死去			
滋賀県師範学校 二等教諭		宮城県土族	岡 文二	明治十六年五月十七日病ニ罹リ死ス			中島 信之
Japan mail		愛知県平民	黒宮 武雄	明治十三年	同上		出田晴太郎
福岡中学校	福岡板垣方	高知県土族	安岡儒次郎	明治十八年	同上		原田 成貞
札幌農学校助教	北海道札幌区南一 条西五丁目	兵庫県土族	小寺 甲子次	本科生死去			
長崎県平戸農学 校長兼三等教諭	長崎県東彼杵郡大 村久出津九十九番 地	長崎県土族	本土源次郎	明治十五年	同上		成田庄太郎
陸 軍 省 属	北海道札幌区屯田 兵本部官舎	兵庫県土族	山口 壮藏	明治十七年一月十六日 同上			吉田 安平
北海道庁技手	函館汐見町三番地	静岡県土族	野沢俊次郎	予科死去			
長野県尋常中学 校二等教諭	長野県松本 長野県中学校内	青森県土族	今 外三郎	明治十九年十一月十一日病死ス			角田 龍磨
鳥取県倉吉農学 校長心得		鳥取県土族	安田 英吉				〔農三一五〕
北海道師範学校 二等教諭	北海道札幌区大通 西二丁目	東京府土族	長谷川豊太郎				

備考

以上ノ予算ハ本校資金蓄積ノ稟裁ヲ得ルトキハ所屬農園事業并其他ノ事業ノ計画ヲ改メ務メテ收入ヲ増加シ以テ前表ノ如ク年々老万円以上ノ收入ヲ得ル見込ヲ示スモノナリ蓋シ該科目中其收入ハ年々増加スルアランモ減少スルコトナキヲ期ス只辨償金ニ至リテハ(生徒學費ノ辦償)向十ヶ年ノ後ニ至リテ悉皆取立済トナルヲ以テ十一年度ニ至リテ該科目ノ收入ヲ減スルニ至ル雖然本校所屬農園開墾ノ事業ヲ拡張

入 学 料	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
総 計	八、九二九	一、七、二九	三、八三三	一、三、五九	七、三、九〇	七、四、二九	七、四、三九	七、四、五九	七、四、五九
	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇

(老ヶ年平均老万三千七百六円余)

スルトキハ其收入ヲ以テ不足ヲ填充シ以テ收入ノ減少ヲ防クヲ得可シ之ヲ要スルニ本校資金蓄積ノ制ヲ一定スルトキハ一ヶ年平均老万参千七百六円ノ收入ヲ得ルヲ以テ利殖ノ途ヲ謀ルトキハ向凡三十ヶ年ニシテ資金凡百万円ヲ得ル其利子五朱ト見ルトキハ一ヶ年金凡五万円ヲ得本校ノ経済初メテ独立スルヲ得可シ

〔農〇〇四〕